

大学の世界展開力強化事業
(平成23年度採択)
平成26年度フォローアップ結果について

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会
平成27年3月2日(月)
独立行政法人 日本学術振興会

■フォローアップの目的

平成25年度に実施した中間評価において、大学の世界展開力強化事業プログラム委員会評価部会から採択大学の中間評価後の取組状況について引き続き確認するよう指摘がなされたことを踏まえ、「大学の世界展開力強化事業」の適正な事業管理を行うとともに、各大学における円滑な事業実施の支援、事業成果の還元のため、毎年度各大学の取組の進捗状況を確認するフォローアップを行う。

■ スケジュール

- ・平成26年10月30日
フォローアップ実施について文部科学省から各採択大学に通知
- ・平成26年12月1日～12月3日
各採択大学からフォローアップ調査票の提出
- ・平成27年3月2日
大学の世界展開力強化事業プログラム委員会にフォローアップ結果の報告
- ・平成27年3月
フォローアップ結果の公表

■フォローアップの総括

平成23年度に採択された25件のプログラムについて、採択時の構想の各観点における進捗状況、特記すべき事項や構想時に設定した達成目標に対する平成23年度から平成25年度までの実績(派遣・受入学生数)等のフォローアップを行った。

各プログラムの取組、課題等や学生交流の進捗状況を見ると、それぞれのプログラムの目的や特色等を反映した取組が行われ、一部には当初計画を上回る成果が出ている事例もある。特に派遣学生については、留学期間が短期から中長期へ、さらには学位取得を目指すという留学意識が向上している例が報告されている。一方で、新たな課題や問題点も浮上しており、各採択大学はその対応や解決に努めている。

事業全体の交流学生数の実績を見ると、派遣・受入いずれも目標を上回っており、事業の最終年度(平成27年度)に向けて、数値目標の達成が見込まれる。

今後も、本事業の趣旨に則り、各プログラムがさらに充実し、成果を挙げられることを期待する。

1. 取組の進捗状況

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）平成26年度フォローアップ調査票（以下「調査票」という。）による各採択大学からの回答に基づき、下記①～④の各観点における「優れた取組」や「課題等」について、抽出・整理を行った。

- ①交流プログラムの枠組み
- ②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成
- ③外国人学生の受入れ及び日本人学生の派遣のための環境整備
- ④構想の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

①交流プログラムの枠組み

タイプA

【優れた取組(各大学のコメントより抜粋、要約)】

○短期集中プログラムは、比較的学生が参加しやすい夏期に開催し、派遣先における講義だけでなく、企業訪問等の機会も設けるなど、文化・ビジネス等を実感できるプログラムとなっている。また、日本、韓国、中国各大学の参加学生で構成するチームで一つのテーマに取り組むというチームプロジェクトを通じて、より各大学参加者間のコミュニケーションが促進され、強いつながりが生まれることから、非常に好評なプログラムで、多くの学生の交流を可能にしている。

○これまでのプログラムをジョイント・ディグリー、国際共同大学院に発展的に解消する準備を進めている中、前段階としてダブルディグリーの協定が締結された。また、学生自発の学生クラブ、同窓会の立ち上げ等、学生交流が持続的に行えるシステムが整備され、活動している。

【課題等(各大学のコメントより抜粋、要約)】

○留学のメリットが分っていても、学生を無事修了・就職させるという重責のためか、学生の留学に躊躇する研究グループも多いように見える。この状況から一部でも抜け出すことができれば日本人学生の留学者数は増大する筈であるが、大学の仕組・日本の構図に関わる大きな課題である。

○プログラムの後半期に入り、今後、日中韓3大学の交流関係をどのような形で発展させていくかという点について議論し始めている。特に、キャンパス・アジアプログラム終了後に本交流プログラムを持続的に運営していくことが今後の課題であり、大学間で議論しているところである。

タイプB

【優れた取組(各大学のコメントより抜粋、要約)】

○ビデオ会議システムを用いて、3拠点(米国、日本、英国)の教職員による合同運営委員会を毎月開催している。さらに平成25年7月のショートプログラム開催期間中には、対面による3拠点合同運営委員会を実施し、第1期参加学生や各提携校の教職員からのフィードバックを踏まえた単位互換ルールやカリキュラムの詳細設計に関する再調整を行った。

○平成24年度までの成果をもとに海外大学アライアンスプログラムの企業との提携を拡大し、平成25年度に引き続き欧米日3大学協働教育プログラムを企業のサポートを得て実施するとともに、新たに4企業のサポートを得て、社会的課題に対し先端・実践的な指導を行う課題解決型学習として実施することができた。

○夏季休暇期間に各国協定校の学生向けに特化した本学および日本の紹介を目的とした短期講座を設置し、日本語の学習履歴に応じた日本語指導と低学年学生向けの研究室体験セミナーを開催し、修士課程における進路として本学大学院を紹介している。

○次年度科目への参加を希望する本学学生を対象に、外国人学生とのグループ研究を実践する場を提供するワークショップを、海外連携大学にて実施した。

【課題等(各大学のコメントより抜粋、要約)】

○協働教育の実施にあたっては、本学のみならず、各連携大学の各校が、それぞれ外部資金の獲得など、学生や教員の派遣等にかかる費用工面の努力をする必要がある。平成27年度に開催予定である次回会合では産学連携に焦点をあて、海外連携大学と企業の協力による共同インターンシップ等についても議論を深め、産業界からのサポートも得られる体制の確立を目指す。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

タイプA

【優れた取組(各大学のコメントより抜粋、要約)】

○プログラム終了後、カリキュラム、事務対応、プログラムへの要望などについて参加学生にアンケート調査を行い、結果を教職員間で回覧し、実情の把握と今後の課題と解決策について認識を共有した。

○平成25年12月に、他の大学院における修得単位の互換認定等に係る申請・承認手続きを規程改正して、全体の手順や審査の分掌を一段と明確化した。この結果、キャンパス・アジア受入学生が、学年暦の早い段階で単位互換を確定させることで履修計画の策定を前倒すことが可能になったほか、他の大学院での修得単位を互換できない場合の対策を講じ、学生から希望があれば、本学成績証明書の欄外に記載できるようにした。このように協定校で教育成果を相互認知して留学生の交流意欲・履修意欲を高めるための枠組みが強化されている。

【課題等(各大学のコメントより抜粋、要約)】

○特定研究室に留学希望が集中することがあるため、マッチングにより、国内連携大学の同分野研究室に依頼したり、受け入れ時期をずらしたりするなどに対応しているが、特定の研究室だけに負担をさせないシステムを構築する為に、プログラム広報活動を強化し、幅広い分野での教員・研究分野での交流を促進し応募者の多様化に努める。

○当初想定されていた博士前期課程1年の学生だけでなく、2年からの応募や、社会人を経験した学生の参加も増えてくるなど、様々なケースの学生が参加するようになってきた。学生それぞれの事情に対応する形で、交流の枠組みをいかに発展させていくかが、今後の課題となっている。

タイプB

【優れた取組(各大学のコメントより抜粋、要約)】

- 受入・派遣双方の学生に対し、留学前後に本人と受入・派遣元指導教員の3者間で「Research Study Plan/Record」を取り交わし、受入・派遣された学生の研究に対する理解度をあらかじめ測ることで効果的な研究指導ができています。両大学の指導教員が責任を持って留学生を受入れる仕組みができています。
- 本構想の全般に亘る質の保証を行うため、学術分野・ビジネス分野・デザイン分野での世界的権威者から成る外部評価委員会を設立した。
- 外部識者からなる「アドバイザリー・ボード」会議を開催。平成25年度の教育プログラムや事業運営の報告を行い、次年度以降の事業計画案等に対する提言を受けるなど、引き続き本事業に対する外部評価を受けての「質保証」に努めている。

【課題等(各大学のコメントより抜粋、要約)】

- 派遣、受入れ両方の募集要項がわかりにくいという学生からの指摘があった。特に、指導教員の事前承諾が得にくいなどの課題が顕在化し、より交流実態に即した形でわかりやすい募集要項の記述になるように改訂していく。
- 日米大学の複数の教員により協働で立案され、フィールド調査地も日米の複数の地域・団体に及ぶなど、多数の関係者によって構築されるのが本事業で実施している課題解決型学習科目の特徴であり、関係者間が共通の認識の上に授業を遂行することが必須であるが、その分、当該科目を担当する教員の負担は大きく、今後は、その取組内容、評価手法を統合的に分析し、科目の質保証に資するように取り組む必要がある。

③外国人学生の受入れ及び日本人学生の派遣のための環境整備

タイプA

【優れた取組(各大学のコメントより抜粋、要約)】

○中韓からの留学経験者が増えるとともに、彼らが日本での生活・研究室情報を自国内で発信することが可能になっている。さらに、留学生が少ないストレスで生活するためには、ティーチングアシスタントが機能することが重要ということが浸透してきた。

○前年度のプログラム参加学生と今年度の参加学生との間の連絡を促し、留学経験者の持つ情報を事前に共有させるとともに、(1)プログラム学生が留学中に提出しているマンスリーレポートを、了解を取った上で派遣予定学生の閲覧に供する、(2)事前に本学教員が派遣元大学に赴き、受け入れ予定の学生と面談を行なう等、留学生活を始めるにあたっての不安を払拭し、学生がスムーズに留学をスタートできるように図っている。

○海外連携大学が実施したティーチングアシスタント養成派遣プログラムの派遣日本人学生が、通年歴史科目の補助教材作成やシェアハウスでのイベント企画・開催など、様々な面で中韓パイロット学生の日本での勉強や生活をサポートした。また、キャンパスアジア学生たちの共同研究室である「キャンパスアジア・カフェ」に隣接して教員の執務室を置き、教員が担当シフトを組んで常駐し、学生からの質問・要求などに随時対応した。

【課題等(各大学のコメントより抜粋、要約)】

○受入学生のアンケート調査において、キャンパス・アジアの日本人学生と交流する機会はあるが、それ以外の日本人と知り合う機会がないとの意見が出されたことから、どのような機会を提供できるかを現在検討している。

タイプB

【優れた取組(各大学のコメントより抜粋、要約)】

○オンライン申請できるようにシステム環境を整え、派遣学生の平成25年度の募集(平成24年12月募集開始)から利用した。これにより、留学生の応募が迅速化されたばかりか、応募留学生の評価や選抜の手続きが簡素化され、その後の一元管理に役立っている。

○外国人学生の受入れに際して、学生バディ制度を導入している。応募者の中から選抜された学生を対象として、異文化理解、コミュニケーションについてのトレーニングを実施し、単なる「友達」ではなく、異文化環境における学習・生活のパートナーとして、日本の大学での留学生生活を充実させるための仕組みを整えている。

○本プログラム参加者を対象に、学期ごとの学習等達成度記録簿の作成と面談を導入。本プログラム専従のコーディネーター教員が学生の履修状況を確認し、助言を行うことにより、本プログラムの修了、ならびに海外への留学を支援・促進している。

【課題等(各大学のコメントより抜粋、要約)】

○宿舎については、引き続き民間宿舎の借り上げを行う必要がある。来日時期が宿舎確保状況に左右されることがないように、対象物件の拡大、契約方法の改善等を検討していく。

○インターンシップ実施時期と授業期間の調整並びにビザ延長の課題の解決が難しく、平成25年度の派遣学生のうち海外でのインターンシップを実施したのは1名であった。引き続きインターンシップ実施のための方策を検討していく。

④構想の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

タイプA

【優れた取組(各大学のコメントより抜粋、要約)】

- 初年度からホームページを通じた情報の提供を行い、そこでプログラムの概要、申し込み方法、シンポジウムやサマープログラム、研究成果などの情報を日本語および英語で発信しているが、ホームページをリニューアル化したことで、わかりやすさを従来より強化している。
- 大学院進学情報サイトへのキャンパス・アジア参加学生のインタビュー記事掲載や、国際協力の話題を幅広く取り上げている雑誌への記事掲載により、学外のメディアに積極的に情報発信を行い、本学のキャンパス・アジアプログラムの魅力が伝わるようプロモーション活動を行った。
- SNSを活用した情報発信及び大学と学生間の情報共有・ネットワーク構築。
- プログラムの活動内容は随時ホームページ上で公開している。オンデマンド形式の教育コンテンツの共同開発についての議論を大学間で進めた。

【課題等(各大学のコメントより抜粋、要約)】

- 日本、中国、韓国いずれの参加大学内においても、本プログラムに積極的に関わり学生交流に対する貢献が大きい研究室と、そうではない研究室との温度差が大きい。交流の幅を拡大するために、公開シンポジウムや集中講義、連携大学セミナーなどの機会を利用し、学生には留学を勧めるとともに教員には最先端研究を紹介し、学生を介した研究交流の輪を広げている。

タイプB

【優れた取組(各大学のコメントより抜粋、要約)】

- プログラムに関するカリキュラムや詳細な情報に加え、参加学生の活動を学外に向けて紹介するため、既存のウェブサイトとリンクする形で専用ページを作成。留学ポートフォリオの内容と連携する形で、学生の留学中の体験や気づき、成長の記録を発信している。
- 活動の様々な情報提供は、HPに随時アップすると共に、各プログラムを通じて、年4回、事業の実施状況、プログラム学生の報告、研究成果等をニュースレターの出版及びウェブサイト、パンフレット、ニュースレターの多言語対応を行っている。また、プログラム内容を周知する為に、プロモーションビデオの作成も行ってきた。
- 6冊の協働教育プログラム報告書の作成と8件のサマリーを作成するとともに、海外大学や企業へのPR資料として活用した。

【課題等(各大学のコメントより抜粋、要約)】

- コンソーシアム設立のために、企業向けの広報を強化することが今後の課題である。平成26年度は企業参加者に特化した各連携大学のデザイン手法を体験できるワークショップと平成27年度の米国での成果発表会においてグローバル企業との交流の場を作り出すべく準備を進めている。
- 本構想の他大学への開放が、成果の普及における一つの課題となっている。他大学の学生がプログラムに参加し、修了証を取得できる制度へと発展させていくための段階的なプログラム開放に向けて、平成26年度から調整を進めている。

2. 特筆すべき成果等

調査票による各採択大学からの回答に基づき、特記すべき事項等の中から「特筆すべき成果等」について、抽出・整理を行った。

タイプA

- 派遣された学生の帰国後の学習のフォローを目的として、「特殊講義(外書講読Ⅰ、Ⅱ)」を法学部科目として開設し、帰国した学生が派遣された国の法や政治に関する学習を継続できるようにした。また、派遣経験者の学生を対象として、「フォローアップ研修」を実施し、韓国に派遣された学生2名が中国への短期研修へ行き、日中韓の法・政治のあり方について比較しながら「東アジアユス・コムーネ」について検討した。(A-I 名古屋大学)
- 平成25年度は、理系4大学連携の一環として、「科学論文英文ライティングセミナー」のテレビ配信(5月21日)を実施した。名古屋大学から、標記セミナーをTV会議システムで、3大学(東北大学、東京工業大学、九州大学)に配信し、4大学あわせて66名の学生が聴講した。これは、共通性の高い講義等の他大学配信を促進する。(A-I ○名古屋大学、東北大学)
- 平成25年11月のソウルで行われたプログラムのシンポジウムから、各大学から2名の学生(合計6名)を報告者とする学生セッションが開催された。さらに、同シンポジウムにおいて、翌平成26年に神戸で開催されるシンポジウムにおいては学生セッションの比重をよりいっそう高めるという方針が定められた。この決定に基づいて、平成26年11月に開催された同シンポジウムでは、神戸大学、復旦大学、高麗大学校の3大学から口頭報告9名、ポスターセッション11名が選ばれ、研究報告を行なった。(A-I 神戸大学)

○サマースクール(SS)の参加学生を3大学(九州大学、釜山大学校、上海交通大学)にとどめず、アジア5ヶ国に拡大して招聘したことで、プログラムのオープン化、さらなる国際化が実現した。特にアジア5ヶ国から参加した学生10名は、学習意欲が高く、発言も積極的であったことで参加学生全体への波及効果が顕著に見られ、プログラム自体をより活性化することができた。プログラム終了後のアンケートでは、内容に満足している旨のコメントが多数寄せられたと共に、特に参加大学のうち、ダッカ大学(バングラデシュ)からは平成26年度のSS参加可否についても打診が寄せられるなど、非常に評判が良かった。(A-I 九州大学)

○平成26年7月に、大阪国際交流センターにて3大学(立命館大学、広東外語外資大学、東西大学校)が主催、朝日新聞後援で、「日中韓キャンパスアジア国際フォーラム」を実施した。これまでの本プログラムの取組みの紹介と、東アジア情勢を踏まえた今後の高等教育や人材育成のあり方について発信し、約1000人の来訪者があった。また、後日、採録記事が朝日新聞紙面とデジタル版サイトにも掲載され、本プログラムの成果を広範に一般の方に発信した。(A-I 立命館大学)

○平成24年度のファカルティ・ディベロップメント(FD)シンポジウムでは、京都大学の学生のレポート作成能力の低さが指摘された。そのため、平成25年度は6月から6週間かけて、民間業者に委託して京都大学の学生にレポートや英会話を含む英語表現力の向上を目的とした講習会を開催した。その結果、平成25年度のFDシンポジウムでは、平成24年度に比較して京都大学学生の英文レポートの大幅な質の向上が確認できたと報告された。(A-II 京都大学)

○本事業の出口部分をどう構築するかという課題に対するひとつの答えとして、ASEAN地域の大学生たちを一堂に集めた日本企業のジョブ・フェア(合同就職説明面接会)を、シンガポールで実施した。本事業の修了生も何名か参加した。平成26年度はさらに大きな規模でのジョブ・フェア開催をしている。(A-II ○大阪大学、広島大学、長崎大学、名桜大学)

タイプB

- 平成25年度中に準備を進めた海外連携大学との協働教育プログラムについて、平成26年度に、Micro/Nano Fluidics and Bio Medical Applicationsの分野横断的テーマでの夏期集中講義が実現した。Deans Forum Lectureshipの第一回となる今年度の講義では、マサチューセッツ工科大学、カリフォルニア大学バークレー校、スイス連邦工科大学チューリッヒ校の各校から講師を招聘し、本学教員と共に集中講義を実施した(2単位を付与)。工学系内様々な専攻からの受講があった他、学内の研究科横断型プログラムとも連携し、他研究科の学生の参加を促す体制を整備した。(B-I 東京大学)
- 本学ではすでに個々の大学同士間の国際交流は長年の蓄積があり、大学のネットワークでは欧州のIDEAリーグ、アジアのASPIREリーグを先導している。これらのリーグではすべての大学が相互に乗り入れた国際交流を行っている。一方、米国のリーディング大学との広範な協働運営する仕組みは本学をハブとして相手大学と放射線状に結びついている。受入学生は本学のプログラムに参加してはじめて米国大学間の学生同士が交流を果たしている。本事業の大学間交流について、本学がハブ校としての役割を果たしていく。(B-I 東京工業大学)
- 校外での活動と成果としては、インターナショナルプロジェクトの成果物を「東京デザイナーズウィーク」に出展し、本プログラムの受入学生2名がプロジェクトについて発表をした結果、プレゼンテーション部門で第1位を受賞した。これにより、本構想が極めて高い質を有していることが確認されるとともに、本構想の対外的な認知度の向上に大きく貢献した。東京デザイナーズウィークは平成26年10月下旬より10日に渡り開催され、11万人以上の来場者があった。(B-I 慶應義塾大学)

○国際教育の質保証としてのアセスメントとして、平成25年度から異文化教育ルーブリックを開発・運用し、Intercultural Development Inventory (IDI: 異文化感受性発達尺度)による留学前・帰国後のアセスメント及び学生へのフォローアップ面談も実施している。グローバル協働教育プログラムで導入を開始したeポートフォリオは、平成25年度から他の海外プログラム（経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援）で導入を始め、アセスメントおよびラーニング・コミュニティの活性化に貢献している。(B-I 立命館アジア太平洋大学)

○各大学に留学した学生は異なるデザイン教育の学修を実践することでデザインに取り組む多様なアプローチを獲得するとともに、短い期間での海外連携大学における学習プログラムならびに文化慣習・生活環境への適応を経験することでタフな実行力を身につけてきている。(B-II 千葉大学)

○比較的短期の派遣プログラム参加学生が、より長期の留学プログラムに応募する例が増加し、本事業実施後これらの学生数は約2倍になっており、短期→中長期→学位取得プログラムの理想的な流れが機能している。(B-II 広島大学)

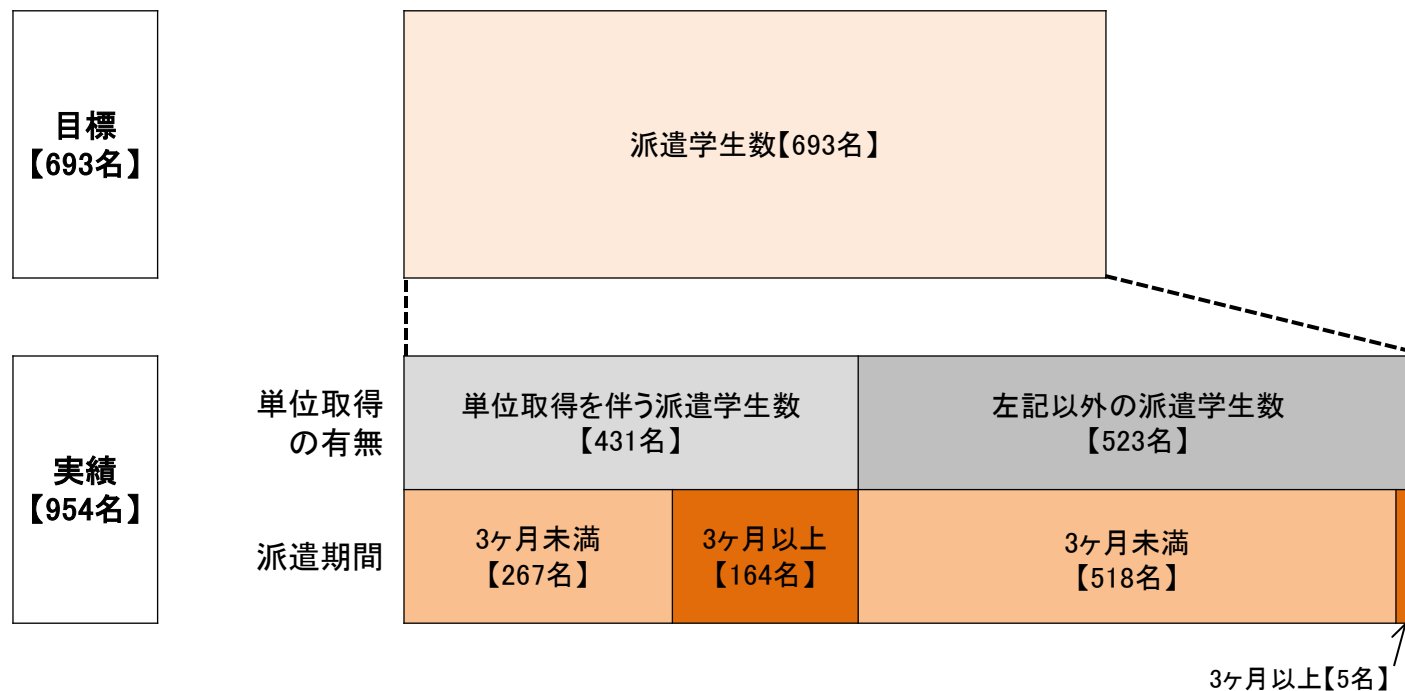
○Certificate Program (CP)登録者の履修状況を可視化することによって、状況に合わせた履修指導を行えるような仕組みを作り、平成26年度より運用を開始、大きく三つに学生を分類し対象学生を関係教職員の間で共有した。その結果として、修了に近い学生に対して、状況に合わせた適切な管理、指導ができたため、平成25年度末までで10名だった本学のCP修了者数は、平成26年度春学期終了時点で25名まで増加し、さらに秋学期終了時点では50名に達する見通しとなっている。修了目前にも関わらず卒業せざるを得ないという状況を未然に防ぐことができおり、本取組の一定の成果が出ていると考える。(B-II 関西学院大学)

3. 交流学生数の実績(1)

(1-1) 交流プログラムで海外に留学した日本人学生数(派遣学生数)について【全体の状況(平成23年度～平成25年度)】

タイプA

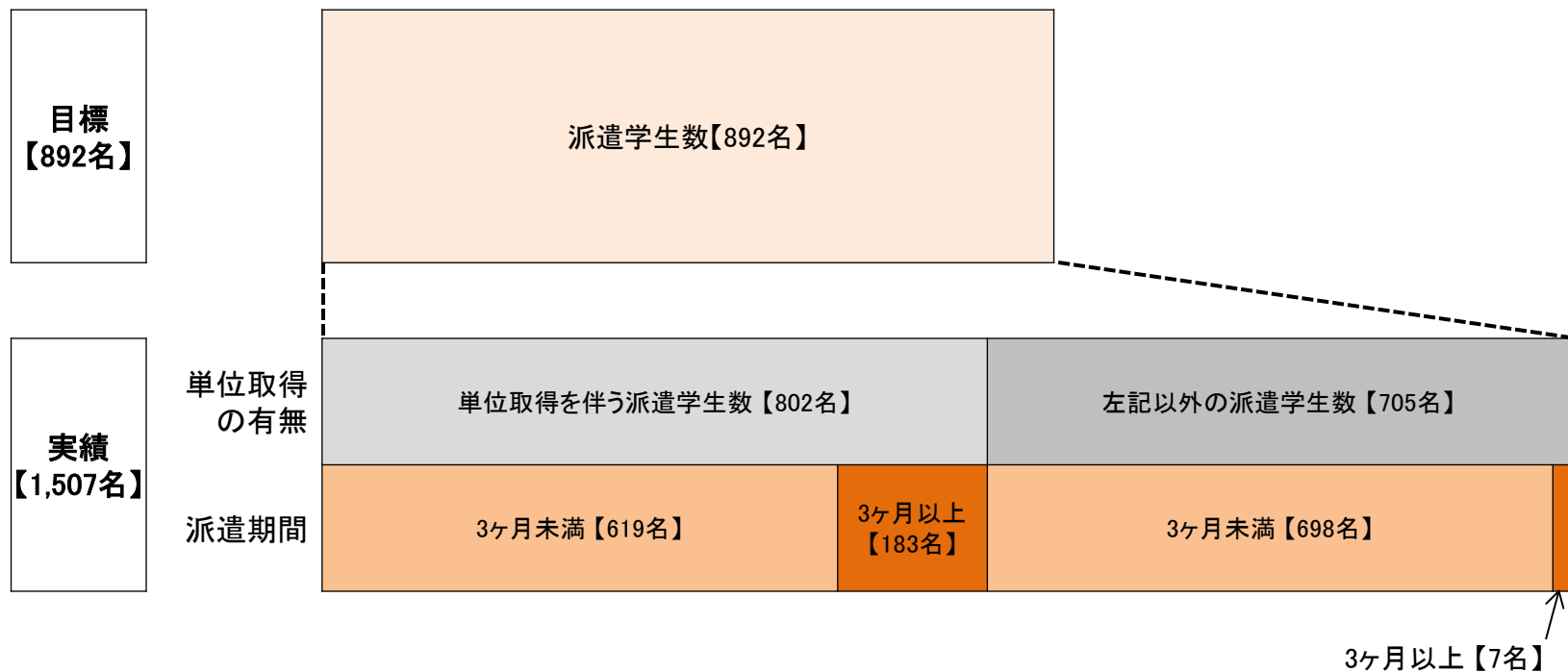
達成目標に対する実績の割合は137.7%



※タイプA-Iの目標及び実績については、中国及び韓国への派遣学生数のみを記載。

タイプB

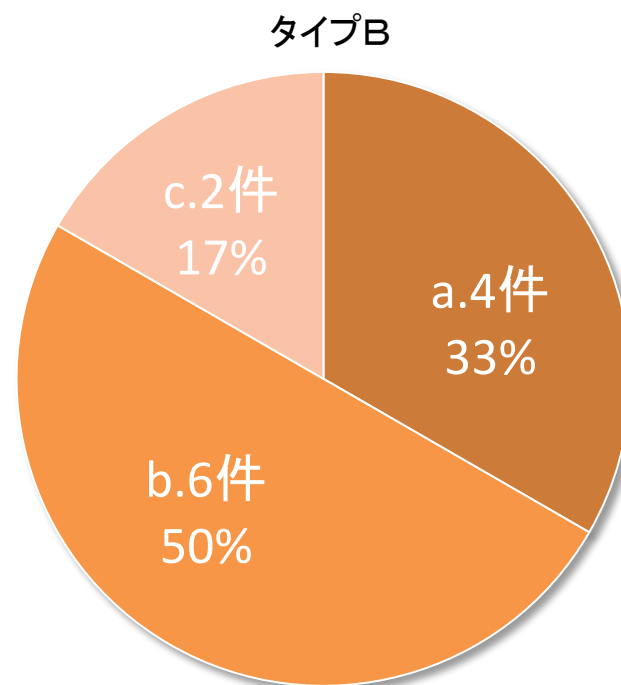
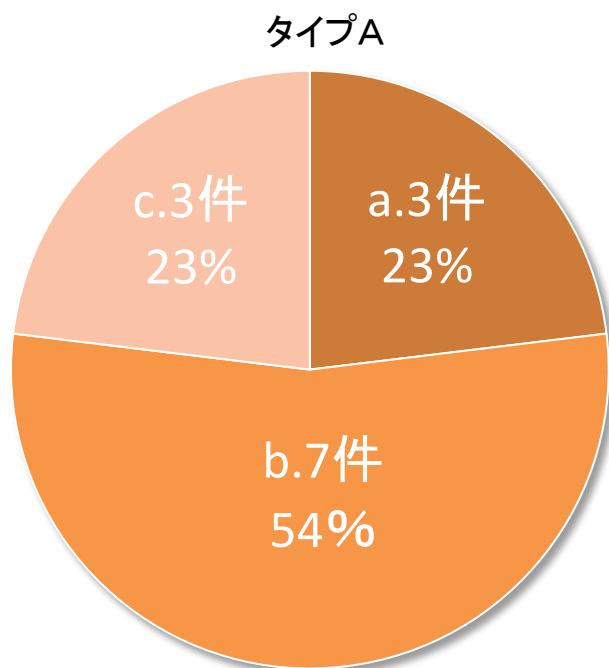
達成目標に対する実績の割合は168.9%



(1-2) 交流プログラムで海外に留学した日本人学生数(派遣学生数)について【各プログラムの状況(平成23年度～平成25年度)】

達成目標に対する実績の割合が

- a. 200%以上だったプログラム
- b. 100%以上200%未満だったプログラム
- c. 100%未満だったプログラム



※プログラムごとの派遣学生数の詳細は別表1参照

(1-3) 交流プログラム(派遣)の進捗状況について (各大学のコメントより抜粋)

タイプA

【達成目標に対し実績が上回っているプログラム】

○海外留学のハードル・不安を払拭するために、海外連携大学と共同で「リサーチセミナー」を実施した。学生がセミナーに参加し初めて海外の研究者や学生達と研究テーマを通じ英語で討論することで、長期留学へのモチベーションと自信を高めることが出来たと考える。毎年開催するキャパスアジア・シンポジウムは、留学に興味をもつ日本人学生にとって、中韓の教員・学生と直接交流し、留学の事前学習として最適の場となった。

(A-I ○名古屋大学、東北大学)

【達成目標に対し実績が下回っているプログラム】

○平成25年度においては、派遣者数が目標数(1→6→16)を少なからず下回る数字となっている。これは、①質保証の観点から派遣予定者の選抜を慎重に行なった、②目標数を設定した当初、6か月の交換留学が主となることを見込んでいたが、実際には意欲的に学位取得を目指すダブルディグリー学生の数が全体の半数に迫る状況となっており、交換留学でも12か月の留学期間を選択する学生が出ている(12か月留学の学生1名の派遣は、6か月留学の学生2名の派遣に相当する)、の2点が理由である。(A-I 神戸大学)

タイプB

【達成目標に対し実績が上回っているプログラム】

○構想時と同程度の人数の学生を単位付与を伴う形で派遣している。また短期学生ワークショップを開催することで、当初予定以上の毎年計50人程度の学生を派遣している。

(B-I 名古屋大学)

○短期の研修プログラム及び半年から1年間の中長期交換留学プログラムを実施した。短期研修については、新入生を対象とする①STARTプログラム、「平和と人権」「保健」を学習テーマとした欧州等への②Study Abroadプログラム、豪州「環境」分野の③プレ修士サマースクールがある。(B-II 広島大学)

【達成目標に対し実績が下回っているプログラム】

○当初留学と連動するタイプの課題解決型学習科目の実施のみを検討していたため、平成23年度内の留学申請時期までの海外連携大学との交渉が間に合わず、平成24年度の実績については、1大学のみとの実施となった。平成25年度からは、留学と連動するタイプの課題解決型学習科目の他に、留学終了後の学生を対象とした独立型の当該科目を開講したこともあり参加学生数は増加したが、まだ当初の達成目標には及んでいない。

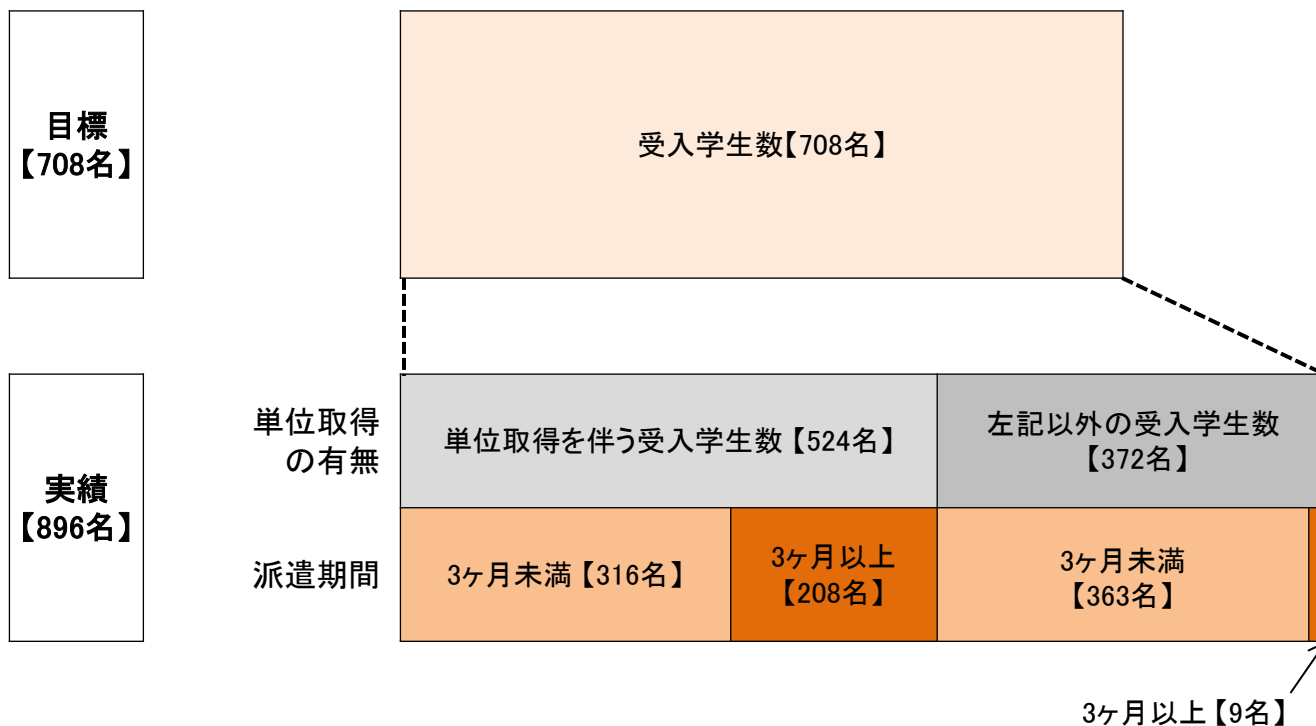
(B-I 国際教養大学)

3. 交流学生数の実績(2)

(2-1) 交流プログラムで受け入れた外国人学生数(受入学生数)について【全体の状況(平成23年度～平成25年度)】

タイプA

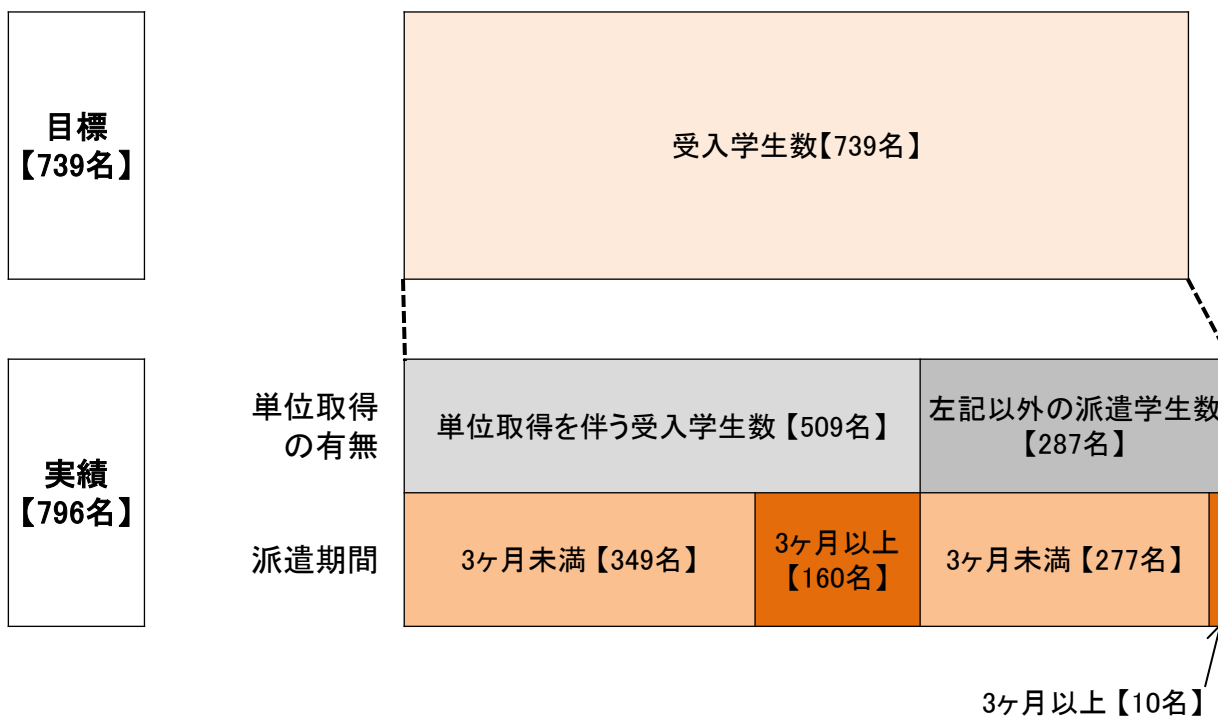
達成目標に対する実績の割合は126.6%



※タイプA-Iの目標及び実績については、中国及び韓国からの受入学生数のみを記載。

タイプB

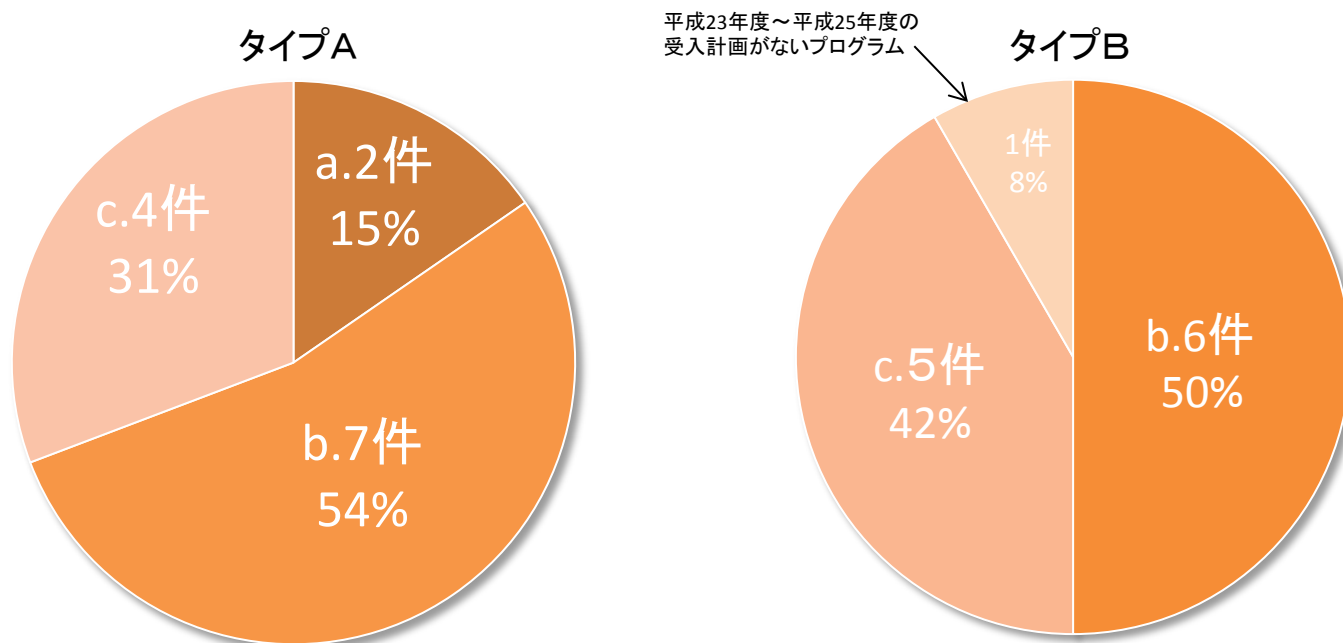
達成目標に対する実績の割合は107.7%



(2-2) 交流プログラムで受け入れた外国人学生数(受入学生数)について 【各プログラムの状況(平成23年度～平成25年度)】

達成目標に対する実績の割合が

- a. 200%以上だったプログラム
- b. 100%以上200%未満だったプログラム
- c. 100%未満だったプログラム



※プログラムごとの受入学生数の詳細は別表2参照

(2-3) 交流プログラム(受入)の進捗状況について (各大学のコメントより抜粋)

タイプA

【達成目標に対し実績が上回っているプログラム】

- 受入数の内容としては、①ダブルディグリー取得を目指して九州大学へ留学する交換留学生、②3大学協働教育プログラムとしてのサマースクールへの参加学生、③CSS EESTセミナーへの参加学生、そして、④スプリングセミナーへの参加学生と大別される。構想時よりも多数の学生受け入れが可能となり、より活発な学生交流が行えている。(A-I 九州大学)
- 平成24年度は、日中韓の政治・外交的テンションの高まりのため、訪日に慎重な学生が多かったが、平成25年度はプログラムの進行に伴い、実際に来日した学生による日本の大学の環境・設備・セキュリティなどの評価及び、留学した学生からの情報交換による広報活動のお陰で、徐々に留学応募者が増えてきた。また、短期留学やサマースクールなど学生交流を促進する取組みが功を奏し、中韓の大学から日本への留学に対するハードルが下がり、応募者を増やすことが出来たと考えている。(A-I ○名古屋大学、東北大学)

【達成目標に対し実績が下回っているプログラム】

- 受入においては、短期集中プログラムでは、直前の参加者本人の事情による事態等の偶発的な減員を除き、例年各海外連携大学から10名ずつの受入実績がある他、ダブルディグリーで1名、学期間交換留学で1名と平成24年度より微増している。さらなる交流の活発化をめざし、連携先で行われる、本プログラムの紹介セッション等への参加を学生に促す、本学の資料を送付するといった形で、広報活動等を展開する予定である。(A-I 一橋大学)

タイプB

【達成目標に対し実績が上回っているプログラム】

○交換留学(3ヶ月以上)への受入学生数については、本構想開始年度より順調に増加しており、平成25年度は8大学より16人となり申請時の構想調書記載人数の10人を大きく上回った。本構想における交流プログラム以外に、平成25年度には欧米の協定校より2人の交換留学生を受入れている。また、欧米地域以外からは、中国・台湾・韓国から10人を交換留学生として、28人を正規学生として受入れた。海外大学アライアンス(3ヶ月未満)による受入学生数についても、本構想開始年度より順調に増加しており、平成25年度は41人となった。

(B-II 千葉大学)

【達成目標に対し実績が下回っているプログラム】

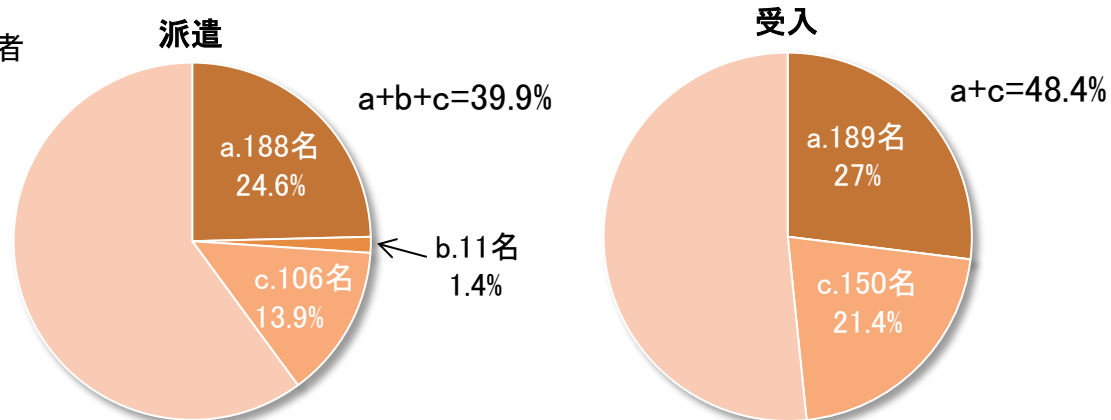
○本事業での課題解決型学習科目の開講が平成25年度から実施されたため、外国人学生の受け入れについても平成25年度から開始された。当初は本学の学生同様、当該科目終了後に本学へ交換留学する長期滞在の外国人学生の獲得を目指していたが、米国協力大学側のカリキュラムや卒業年次との兼ね合いから、当該科目のみに参加する学生が大半を占めている。受入れ人数については、当該科目の開講数が当初申請書に掲げた計画通りに進行していないため達成目標には及ばないが、できるだけ目標に近づけるよう努力していく。(B-I 国際教養大学)

(3) 奨学金・宿舎提供の状況(タイプA-I)について

【全体の状況(平成23年度～25年度)】※日中韓の交流学生数のみを記載。

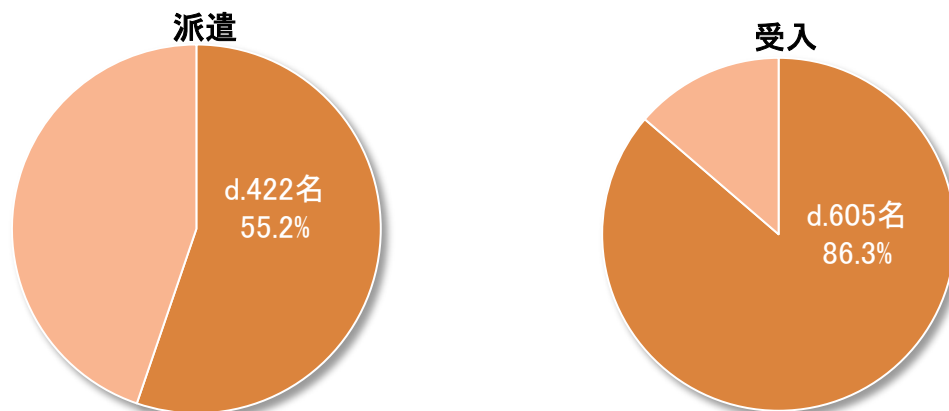
◆奨学金を受けている学生の割合は、派遣39.9%、受入48.4%

- a. 日中間三国共通の財政支援受給者
- b. 大学による奨学金受給者
- c. その他の奨学金受給者



◆宿舎(大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等)を提供されている学生数の割合は、派遣55.2%、受入86.3%

- d. 宿舎を提供されている学生数



※プログラムごとの学生数の詳細は別表3参照

別表1:プログラムごとの派遣学生数

(単位:名)

	取組年度	合計人数	達成目標に対する実績の割合 (%)	(内訳)								
				単位取得を伴う派遣学生数			左記以外の派遣学生数					
				(計)	3ヶ月未満	3ヶ月以上	(計)	3ヶ月未満	3ヶ月以上			
				実績			実績					
目標	実績											
タイプA・I	東京大学	公共政策・国際関係分野におけるBESETOダブル・ディグリー・マスタープログラム	H23	0	14	245.0	0	0	0	14	14	0
			H24	5	22		22	14	8	0	0	0
			H25	15	13		13	0	13	0	0	0
			計	20	49		35	14	21	14	14	0
	東京工業大学	日中韓先進科学技術大学教育環	H23	0	0	105.0	0	0	0	0	0	0
			H24	10	11		9	5	4	2	1	1
			H25	10	10		8	6	2	2	1	1
			計	20	21		17	11	6	4	2	2
	一橋大学	アジア・ビジネスリーダー・プログラム	H23	1	1	81.8	1	1	0	0	0	0
			H24	16	14		7	5	2	7	7	0
			H25	16	12		7	6	1	5	5	0
			計	33	27		15	12	3	12	12	0
政策研究大学院大学	北東アジア地域における政策研究コンソーシアム	H23	0	16	236.7	0	0	0	16	16	0	
		H24	10	31		3	3	0	28	28	0	
		H25	20	24		4	4	0	20	20	0	
		計	30	71		7	7	0	64	64	0	
名古屋大学	東アジア「ユス・コム・ネ」(共通法)形成にむけた法的・政治的認識共同体の人材育成	H23	10	11	106.6	0	0	0	11	11	0	
		H24	28	35		10	1	9	25	25	0	
		H25	38	35		20	0	20	15	15	0	
		計	76	81		30	1	29	51	51	0	
○名古屋大学、東北大学	持続的社会に貢献する化学・材料分野のアジア先端協働教育拠点の形成	H23	0	0	410.0	0	0	0	0	0	0	
		H24	8	31		7	5	2	24	24	0	
		H25	12	51		11	3	8	40	40	0	
		計	20	82		18	8	10	64	64	0	
神戸大学	東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム	H23	1	1	69.6	1	0	1	0	0	0	
		H24	6	6		6	0	6	0	0	0	
		H25	16	9		9	0	9	0	0	0	
		計	23	16		16	0	16	0	0	0	
岡山大学	東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム	H23	0	19	129.7	9	0	9	10	10	0	
		H24	69	81		33	22	11	48	48	0	
		H25	69	79		32	22	10	47	47	0	
		計	138	179		74	44	30	105	105	0	
九州大学	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム	H23	0	0	172.0	0	0	0	0	0	0	
		H24	18	27		27	21	6	0	0	0	
		H25	32	59		10	0	10	49	49	0	
		計	50	86		37	21	16	49	49	0	
立命館大学	東アジア次世代人文リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス	H23	30	16	138.2	0	0	0	16	16	0	
		H24	40	70		12	8	4	58	58	0	
		H25	40	66		20	20	0	46	46	0	
		計	110	152		32	28	4	120	120	0	
タイプA・II	京都大学	強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成－災害復興の経験を踏まえて－	H23	0	0	163.3	0	0	0	0	0	0
			H24	15	33		15	15	0	18	18	0
			H25	15	16		16	16	0	0	0	0
			計	30	49		31	31	0	18	18	0
	○大阪大学、広島大学、長崎大学、名城大学	「アジア平和=人間の安全保障大学連合」を通じた次世代高品位政策リーダーの育成	H23	10	16	128.3	0	0	0	16	16	0
			H24	21	29		26	19	7	3	1	2
			H25	22	23		22	13	9	1	0	1
			計	53	68		48	32	16	20	17	3
	早稲田大学	アジア地域統合のための東アジア大学院(EAUI)拠点形成構想	H23	20	19	81.1	19	19	0	0	0	0
			H24	25	26		26	19	7	0	0	0
			H25	45	28		26	20	6	2	2	0
			計	90	73		71	58	13	2	2	0
タイプA 合計			693	954	137.7	431	267	164	523	518	5	

※タイプA-Iの目標及び実績については、中国及び韓国への派遣学生数のみを記載。

(単位:名)

	取組年度	合計人数	達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)								
				単位取得を伴う派遣学生数			左記以外の派遣学生数					
				(計)	3ヶ月未満	3ヶ月以上	(計)	3ヶ月未満	3ヶ月以上			
				実績			実績					
	目標	実績										
タイプB・I	東京大学	巨大複雑システム統括エンジニア育成に向けた国際協働教育プログラムの創出	H23	22	70	/	27	18	9	43	43	0
			H24	77	59		24	14	10	35	35	0
			H25	78	68		45	27	18	23	23	0
			計	177	197		111.3	96	59	37	101	101
	東京工業大学	グローバル理工系リーダー養成協働ネットワーク	H23	0	0	/	0	0	0	0	0	0
			H24	17	22		11	0	11	11	11	0
			H25	17	20		4	1	3	16	9	7
			計	34	42		123.5	15	1	14	27	20
	名古屋大学	修士課程国際共同大学院の創成を目指す先駆的日米協働教育プログラム	H23	0	37	/	0	0	0	37	37	0
			H24	21	50		21	16	5	29	29	0
			H25	14	51		16	14	2	35	35	0
			計	35	138		394.3	37	30	7	101	101
	国際教養大学	「日米協働課題解決型プロジェクト科目」の導入と「日米教員協働プラットフォーム」構築	H23	0	0	/	0	0	0	0	0	0
			H24	21	5		5	0	5	0	0	0
			H25	27	15		15	8	7	0	0	0
			計	48	20		41.7	20	8	12	0	0
	慶應義塾大学	グローバルイノベーションデザイン・プログラム	H23	0	4	/	0	0	0	4	4	0
			H24	20	21		8	8	0	13	13	0
			H25	20	26		16	0	16	10	10	0
			計	40	51		127.5	24	8	16	27	27
	早稲田大学	早稲田大学グローバル・リーダーシップ・プログラム	H23	0	0	/	0	0	0	0	0	0
H24			0	5	5		0	5	0	0	0	
H25			12	10	10		0	10	0	0	0	
計			12	15	125.0		15	0	15	0	0	0
立命館アジア太平洋大学	APU-SEUグローバル協働教育プログラム—入学前教育から大学教養・専門教育まで	H23	20	8	/	0	0	0	8	8	0	
		H24	65	49		26	26	0	23	23	0	
		H25	70	64		43	41	2	21	21	0	
		計	155	121		78.1	69	67	2	52	52	0
筑波大学	人社系グローバル人材養成のための東アジア・欧州協働教育推進プログラム	H23	2	2	/	0	0	0	2	2	0	
		H24	9	9		0	0	0	9	9	0	
		H25	17	17		6	0	6	11	11	0	
		計	28	28		100.0	6	0	6	22	22	0
千葉大学	大陸間デザイン教育プログラム(CODE Program)	H23	3	9	/	9	5	4	0	0	0	
		H24	17	31		31	24	7	0	0	0	
		H25	27	54		54	42	12	0	0	0	
		計	47	94		200.0	94	71	23	0	0	0
広島大学	国際大学間コンソーシアムINUを活用した、平和・環境分野における協働教育	H23	2	3	/	0	0	0	3	3	0	
		H24	23	143		104	101	3	39	39	0	
		H25	27	157		117	113	4	40	40	0	
		計	52	303		582.7	221	214	7	82	82	0
慶應義塾大学	グローバルエンジニア育成のための欧州理工系大学との連携プログラムの構築	H23	25	58	/	0	0	0	58	58	0	
		H24	45	162		3	3	0	159	159	0	
		H25	120	174		106	84	22	68	68	0	
		計	190	394		207.4	109	87	22	285	285	0
関西学院大学	日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム「クロス・カルチュラル・カレッジ」	H23	0	8	/	0	0	0	8	8	0	
		H24	16	27		27	27	0	0	0	0	
		H25	58	69		69	47	22	0	0	0	
		計	74	104		140.5	96	74	22	8	8	0
タイプB 合計		892	1,507	168.9	802	619	183	705	698	7		
総計		1,585	2,461	155.3	1,233	886	347	1,228	1,216	12		

別表2:プログラムごとの受入学生数

(単位:名)

	取組年度	合計人数	達成目標に対する実績の割合 (%)	(内訳)								
				単位取得を伴う受入学生数			左記以外の受入学生数					
				(計)	3ヶ月未満	3ヶ月以上	(計)	3ヶ月未満	3ヶ月以上			
				実績			実績					
目標	実績											
タイプA・I	東京大学	公共政策・国際関係分野におけるBESETOダブル・ディグリー・マスタープログラム	H23	0	0		0	0	0	0	0	0
			H24	10	8		8	0	8	0	0	0
			H25	20	34		34	19	15	0	0	0
			計	30	42	140.0	42	19	23	0	0	0
	東京工業大学	日中韓先進科学技術大学教育環	H23	0	0		0	0	0	0	0	0
			H24	10	15		12	8	4	3	0	3
			H25	10	16		13	8	5	3	1	2
			計	20	31	155.0	25	16	9	6	1	5
	一橋大学	アジア・ビジネスリーダー・プログラム	H23	1	0		0	0	0	0	0	0
			H24	26	20		10	10	0	10	10	0
			H25	26	21		21	19	2	0	0	0
			計	53	41	77.4	31	29	2	10	10	0
政策研究大学院大学	北東アジア地域における政策研究コンソーシアム	H23	0	0		0	0	0	0	0	0	
		H24	10	23		3	0	3	20	20	0	
		H25	20	20		18	14	4	2	0	2	
		計	30	43	143.3	21	14	7	22	20	2	
名古屋大学	東アジア「ユス・コム・ネ」(共通法)形成にむけた法的・政治的認識共同体の人材育成	H23	0	0		0	0	0	0	0	0	
		H24	20	28		28	18	10	0	0	0	
		H25	30	37		37	18	19	0	0	0	
		計	50	65	130.0	65	36	29	0	0	0	
○名古屋大学、東北大学	持続的社会に貢献する化学・材料分野のアジア先端協働教育拠点の形成	H23	0	1		1	0	1	0	0	0	
		H24	8	22		16	5	11	6	6	0	
		H25	12	20		13	2	11	7	7	0	
		計	20	43	215.0	30	7	23	13	13	0	
神戸大学	東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム	H23	0	0		0	0	0	0	0	0	
		H24	6	8		8	0	8	0	0	0	
		H25	16	10		10	0	10	0	0	0	
		計	22	18	81.8	18	0	18	0	0	0	
岡山大学	東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム	H23	0	12		12	12	0	0	0	0	
		H24	67	33		23	12	11	10	10	0	
		H25	67	86		39	22	17	47	45	2	
		計	134	131	97.8	74	46	28	57	55	2	
九州大学	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム	H23	0	20		0	0	0	20	20	0	
		H24	8	66		6	0	6	60	60	0	
		H25	12	76		55	47	8	21	21	0	
		計	20	162	810.0	61	47	14	101	101	0	
立命館大学	東アジア次世代人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス	H23	0	0		0	0	0	0	0	0	
		H24	60	74		0	0	0	74	74	0	
		H25	65	51		20	20	0	31	31	0	
		計	125	125	100.0	20	20	0	105	105	0	
タイプA・II	京都大学	強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成－災害復興の経験を踏まえて－	H23	0	0		0	0	0	0	0	0
			H24	15	15		15	15	0	0	0	0
			H25	15	15		15	15	0	0	0	0
			計	30	30	100.0	30	30	0	0	0	0
	○大阪大学、広島大学、長崎大学、名城大学	「アジア平和=人間の安全保障大学連合」を通じた次世代高品位政策リーダーの育成	H23	10	10		5	5	0	5	5	0
			H24	21	22		22	12	10	0	0	0
			H25	23	24		24	12	12	0	0	0
			計	54	56	103.7	51	29	22	5	5	0
	早稲田大学	アジア地域統合のための東アジア大学院(EAUI)拠点形成構想	H23	20	20		0	0	0	20	20	0
			H24	40	40		22	13	9	18	18	0
			H25	60	49		34	10	24	15	15	0
			計	120	109	90.8	56	23	33	53	53	0
タイプA 合計			708	896	126.6	524	316	208	372	363	9	

※タイプA-Iの目標及び実績については、中国及び韓国からの受入学生数のみを記載。

(単位:名)

	取組年度	合計人数	達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)								
				単位取得を伴う受入学生数			左記以外の受入学生数					
				(計)	3ヶ月未満	3ヶ月以上	(計)	3ヶ月未満	3ヶ月以上			
				実績			実績					
目標	実績											
タイプB・I	東京大学	巨大複雑システム統括エンジニア育成に向けた国際協働教育プログラムの創出	H23	15	14	68.2	14	11	3	0	0	0
			H24	57	25		17	8	9	8	8	0
			H25	57	49		48	45	3	1	1	0
			計	129	88		79	64	15	9	9	0
	東京工業大学	グローバル理工系リーダー養成協働ネットワーク	H23	0	0	123.5	0	0	0	0	0	0
			H24	17	17		17	1	16	0	0	0
			H25	17	25		16	0	16	9	0	9
			計	34	42		33	1	32	9	0	9
	名古屋大学	修士課程国際共同大学院の創成を目指す先駆的日米協働教育プログラム	H23	6	0	77.8	0	0	0	0	0	0
			H24	8	10		9	9	0	1	1	0
			H25	22	18		18	18	0	0	0	0
			計	36	28		27	27	0	1	1	0
	国際教養大学	「日米協働課題解決型プロジェクト科目」の導入と「日米教員協働プラットフォーム」構築	H23	0	0	39.0	0	0	0	0	0	0
			H24	14	0		0	0	0	0	0	0
			H25	27	16		16	11	5	0	0	0
			計	41	16		16	11	5	0	0	0
	慶應義塾大学	グローバルイノベーションデザイン・プログラム	H23	0	4	96.7	0	0	0	4	4	0
			H24	5	6		0	0	0	6	6	0
			H25	25	19		19	0	19	0	0	0
			計	30	29		19	0	19	10	10	0
	早稲田大学	早稲田大学グローバル・リーダーシップ・プログラム	H23	0	0	-	0	0	0	0	0	0
H24			0	9※	9		0	9	0	0	0	
H25			0	0	0		0	0	0	0	0	
計			0	9	9		0	9	0	0	0	
立命館アジア太平洋大学	APU-SEUグローバル協働教育プログラム—入学前教育から大学教養・専門教育まで	H23	20	16	105.0	0	0	0	16	16	0	
		H24	30	40		0	0	0	40	40	0	
		H25	30	28		0	0	0	28	28	0	
		計	80	84		0	0	0	84	84	0	
タイプB・II	筑波大学	人社系グローバル人材養成のための東アジア・欧州協働教育推進プログラム	H23	0	0	87.5	0	0	0	0	0	0
			H24	9	11		0	0	0	11	11	0
			H25	23	17		17	11	6	0	0	0
			計	32	28		17	11	6	11	11	0
	千葉大学	大陸間デザイン教育プログラム(CODE Program)	H23	12	25	196.7	25	24	1	0	0	0
			H24	20	36		36	23	13	0	0	0
			H25	28	57		57	41	16	0	0	0
			計	60	118		118	88	30	0	0	0
	広島大学	国際大学間コンソーシアムINUを活用した、平和・環境分野における協働教育	H23	0	0	108.2	0	0	0	0	0	0
			H24	56	61		21	20	1	40	39	1
			H25	66	71		21	15	6	50	50	0
			計	122	132		42	35	7	90	89	1
	慶應義塾大学	グローバルエンジニア育成のための欧州理工系大学との連携プログラムの構築	H23	10	15	122.2	0	0	0	15	15	0
			H24	30	30		0	0	0	30	30	0
			H25	50	65		37	0	37	28	28	0
			計	90	110		37	0	37	73	73	0
	関西学院大学	日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム「クロス・カルチュラル・カレッジ」	H23	0	0	131.8	0	0	0	0	0	0
			H24	40	50		50	50	0	0	0	0
			H25	45	62		62	62	0	0	0	0
			計	85	112		112	112	0	0	0	0
	タイプB 合計			739	796	107.7	509	349	160	287	277	10
総計			1,447	1,692	116.9	1,033	665	368	659	640	19	

※早稲田大学のH24の9名は、本プログラムの開始に先立ち、既存の交換協定に基づく受入学生数である。

別表3: 奨学金・宿舎提供の状況(タイプA-I)

(単位:名)

	取組年度	派遣						受入						
		派遣学生数	奨学金を受けている学生数			宿舎(大学所有の宿舎、大学借上げによる宿舎等)を提供されている学生数	受入学生数	奨学金を受けている学生数			宿舎(大学所有の宿舎、大学借上げによる宿舎等)を提供されている学生数			
			日中韓三国共通の財政支援受給者	大学による奨学金	その他の奨学金			日中韓三国共通の財政支援受給者	大学による奨学金	その他の奨学金				
東京大学	公共政策・国際関係分野におけるBESETOダブル・ディグリー・マスタープログラム	H23	14	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0
		H24	22	8	8	0	0	20	8	8	8	0	0	8
		H25	13	13	13	0	0	13	34	34	15	0	19	34
東京工業大学	日中韓先進科学技術大学教育環	H23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		H24	11	11	6	1	4	11	15	15	3	0	12	15
		H25	10	10	2	0	8	10	16	16	0	0	16	16
一橋大学	アジア・ビジネスリーダー・プログラム	H23	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
		H24	14	4	4	0	0	4	20	0	0	0	0	0
		H25	12	14	12	2	0	0	21	19	19	0	0	0
政策研究大学院大学	北東アジア地域における政策研究コンソーシアム	H23	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		H24	31	3	3	0	0	3	23	3	3	0	0	3
		H25	24	4	4	0	0	4	20	6	6	0	0	6
名古屋大学	東アジア「ユス・コム・エネ」(共通法)形成にむけた法的・政治的認識共同体の人材育成	H23	11	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0
		H24	35	10	10	0	0	35	28	10	10	0	0	28
		H25	35	20	20	0	0	25	37	19	19	0	0	37
○名古屋大学、東北大学	持続的社会に貢献する化学・材料分野のアジア先端協働教育拠点の形成	H23	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1
		H24	31	7	2	0	5	7	22	17	11	0	6	22
		H25	51	11	8	0	3	11	20	13	11	0	2	13
神戸大学	東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム	H23	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
		H24	6	6	6	0	0	6	8	8	8	0	0	8
		H25	9	9	9	0	0	9	10	10	10	0	0	10
岡山大学	東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム	H23	19	9	9	0	0	4	12	12	0	0	12	12
		H24	81	32	20	0	12	24	33	23	11	0	12	33
		H25	79	32	10	0	22	79	86	41	19	0	22	86
九州大学	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム	H23	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	20
		H24	27	6	6	0	0	6	66	6	6	0	0	66
		H25	59	10	10	0	0	10	76	19	9	0	10	62
立命館大学	東アジア次世代人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス	H23	16	16	0	0	16	16	0	0	0	0	0	0
		H24	70	28	9	3	16	70	74	39	0	0	39	74
		H25	66	40	15	5	20	31	51	20	20	0	0	51
計			764	305	188	11	106	422	701	339	189	0	150	605
派遣・受入学生数に対する割合(%)				39.9	24.6	1.4	13.9	55.2		48.4	27.0	0.0	21.4	86.3

※ 日中韓の交流学生数のみを記載。